

2022 年度 U-20 審判員研修会／地域育成担当者研修会 研修報告

報告者：山下浩司（函館地区）

【日 時】2022 年 11 月 24 日（木）18：00 集合
～27 日（日）12：30 解散

【会 場】J-VILLAGE

【参加者】《9 地域審判員》北海道・・・丑屋幸大氏

《地域指導者》

鈴木洋一氏（東北）・野田比呂氏（九州）・秦泉寺力氏（四国）

《JFA》

古曽部統太郎氏・木口寛氏・岸賢治氏・濱名哲也氏・高橋武良氏

【スケジュール】

- ・朝食 6:30-
- ・第 1 試合 9:30（最終日 8:30）
- ・第 2 試合 13:00（最終日 10:00）
- ・第 3 試合 15:00/16:00
- ・夕食 18:30-
- ・ミーティング 19:30-21:00

【大会概要】

NTC U-14 地域対抗戦

- ・30 分-10 分-30 分
- ・11 人制
- ・自由な交代
- ・アディショナルタイムなし
- ・1 人審判制

今回 J-VILLAGE で行われた育成担当者研修に参加してきました。審判員はフルコートで1人で行いました。ファウルの判定、タッチラインやゴールライン、オフサイドの監視もすべて一人ですので最初の試合では、つい副審がいるような動きや援助を求めるような動作も見受けられました（例えば、選手が“オフサイド”というアピールをした時に、いないはずの副審の方を見てしまうような）。

日頃は割り当てられた試合をいかにミスなく終わらせることを優先しますが、今回はトレセンマッチを利用しており、選手と同じように審判員は多くのことにチャレンジする機会が与えられました。

指導者もいつもなら試合後にアドバイスをしますが、今回はハーフタイム中に審判員と課題を共有することで後半に向けて“これをやってみよう！”と挑戦することができました。指導する場面でも話しやタクティカルボードだけではなく、実際のフィールドやボールなども使って動きや距離感の確認をしながら行うことができ、審判員も私たち指導者も形にとらわれず取り組むことができたと思っています。また審判員自身で気づいたことは試合中に積極的にチャレンジする姿勢が見られ、変化する姿を確認することができました。さらに補助審判に入っていた審判員も前の審判員がチャレンジしたことを見て、自分もその課題にチャレンジしており、審判員同士もお互いに刺激を与えあう関係でありました。

審判員には“積極的に挑戦して、失敗することで自分自身のステップアップにつなげよう”という声掛けをしましたが、彼らの学ぶ姿勢や課題に挑戦する姿には、頼もしさを感じるとともに、私たち指導者もいかに的確に課題を抽出し審判員への気づきや次へのステップアップへつなげられるか、それをどうサポートしていけばいいのかを常に考える『非日常』の『特別な4日間』となりました。

レポート（別添）については良いところを見つけ、細かい事象ではなく試合全体での課題をポイントを押さえて記述することを心掛けました。また、今回はKIについては触れなくてもよいということでした。



決勝の割り当ては北海道の丑屋さんになりました。審判員も指導者もそれぞれ順位決定戦が割り当たっていたので最終日の彼の姿を見ることはできませんでしたが、この期間中は彼が高校 2 年生の時の道南ブロックレフェリーアカデミーで活動していた時とは見違えるほどアグレッシブな動きをしていました。これは苫小牧地区の皆さんをはじめ、北海道協会の皆さんの育成によるものだと強く感じました。また、実技以外の研修でも、誰よりも熱心にメモを取り、積極的に発言をする姿勢が印象的でした。

最終日の指導者ミーティングでは古曽部さんによるジャムボードを利用したセッションを行いました。その中で、ある地域で「やりたいけどやれない」事業をほかの地域では「やれている」こともあり、それを実施するためのヒントを得たり“まずはやってみよう”という気持ち、まさに挑戦することを可能にする、とても貴重な情報交換・情報共有の場となりました。

今回は審判員 5 名・地域指導者 4 名・JFA インストラクター 5 名という人数でしたので濃密な時間を過ごすことができ、本当にあっという間の 4 日間でした。各地域の審判指導者の方々と共に今回の研修で得たことを地域・道、ブロック・地区へ伝え活動にいかしていきたいと思います。

藤井委員長、村山指導者部長をはじめ皆様には、参加させていただき誠にありがとうございました。



<http://www.jfa.jp/referee/news/00031137/>